

令和5年度 第2回 高岡市地域公共交通活性化推進協議会 議事要旨

日時：令和5年11月30日(木) 10:00～11:30

場所：高岡市役所8階801会議室

委員：19名中17名出席

議事要旨：以下のとおり

【議題】高岡市地域公共交通計画の素案について

資料1、資料2に基づき事務局説明

【質疑応答・意見交換】

○高岡市連合自治会 藤田副会長

- ・全体的にいい計画になっていると評価している。素案P27の施策2-2①「市民協働型地域交通システムのエリア拡大」について、市民協働型地域交通システムの本格運行について支援するとあるが、ここについては是非支援の強化を願いたい。

また、素案P29の施策3-3①「ウォーカブルのまちづくりの推進」とあるが、ウォーカブルとは具体的にどんなまちづくりを目指すものなのか、説明いただきたい。

⇒ 鶴谷部長

現在、高岡市における市民協働型地域交通システムの普及拡大に関しては、試行錯誤を重ねる実証運行期間において特に支援を行っている。本格運行にあたっては支援を実施しているが、一方で、将来的には自走していくことを意識しなければならない。地域や行政で連携し、どのような形で運行すれば持続可能な仕組みとなるのかなどを探っていく必要があることから、「支援の強化」ではなく「支援」という表現を使わせていただいている。

⇒ 事務局回答

ウォーカブルとは、現在国土交通省の方で推進している取り組みであり、「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりを目指すもので、高岡市では歩いて楽しいまちづくりとして中心市街地に計画を寄せて商店街活性化事業や、歩道の整備、カラー舗装を行い、歩きたくなる環境づくりに向けて取り組んでいる。こういった取り組みを盛り上げ推進してまいりたいと考えている。

○北陸信越運輸局交通政策部交通企画課 新倉課長

- ・公共交通計画ということで、どういう方を対象にするのかを考える必要があるが、概要の中で高齢者の交通手段として必要だという記載がある。一方で公共交通機関を使うのは高齢者だけでなく学生もあり、高岡市で掲げている方針の中でも、市民が「暮らし続けられる」という言葉がある。学生が今後社会人になっても高岡市に暮らし続けてもらうため、若い世代の意見はどのくらい反映されているのかお聞きしたい。
- ・また、概要版の最終ページにPDCAサイクルが書かれているが、掲げている方針ごとに施策の進行管理をしていく必要があると思われる。方針ごとにスケジュールを立てて、具体的な期間や関係者を記載し施策の状況や効果を検証していくことをなるべくわかりやすく記載するのがいいと思われる。

- ・藤田副会長も言っていた通り、ウォークアブルという言葉はまだ一般的に馴染みがないものだが、実際歩きやすいまちづくりと公共交通の政策を連動していくこと自体は重要なことである。取り組みの例として兵庫県の姫路市では、歩きやすいまちづくりのため駅前広場の整備とバス・タクシー専用のロータリーを設けたりし、交通規制をかけるなどした。これによってどんなことができるのかをいろんな分野と連携してやっていくことが公共交通については重要である。他分野との連携の取り組みについては国でも支援制度を設けているため、その活用も検討いただきたい。

⇒ 事務局回答

PDCA サイクルに関しては、個々の事業ごとにどのように施策を実行し、参画する方がどのような方なのかということを位置付けて毎年ローリングしていきたい。

○富山運輸支局 廣井専門官

- ・市民協働型地域交通システムについて、地域住民と交通事業者の連携にあたっては、国での支援制度を是非活用していただきたい。また、運行にあたっては制度の話も出てくると思うが、随時運輸支局に相談していただければ対応していきたい。

○西日本旅客鉄道(株)金沢支社 地域共生室企画課交通企画室 鹿野室長

- ・総合交通計画素案を見るに、概要版 P6 基本方針 1 の施策 1－1 ③「東海北陸自動車道の暫定 2 車線区間の 4 車線化」、施策 1－2 ④「能越自動車道の整備」について、公共交通に特化した計画であるにも関わらず、道路整備についての記載がある。一般的には道路が整備されるとマイカー利用者が増えて公共交通の利用促進に繋がらないようにも思える。高速バス路線網を構築し、都市間輸送のさらなる活性化を図ることや、広域交流の観点を盛り込むことを意図されていると思うので、単に整備ではなく、道路を整備することによる狙いも含めて読み取れるように分かりやすく示すとよいのではないかと。

○あいの風とやま鉄道(株) 助野専務取締役

- ・概要版 P4 の基本理念において、鉄道事業再構築実施計画の策定において、「富山県、沿線 4 市、JR 西日本」での策定とあるが、この中に弊社も含めた 7 社での策定であることを示すよう修正をお願いしたい。
- ・計画目標の中で、新高岡駅・高岡駅の利用者数を 13,000 人/日にするとあるが、高岡駅の利用者数の増加についていうと、現在一部の時間帯でパターンダイヤを設定する等、利用者にとって利便性の高いダイヤの設定に取り組んでいる。素案 P25 の城端線・氷見線の再構築については、経営移管するまでは JR 西日本ともうまく連携していく必要がある。素案 P30 の施策 3－4 ②「車両の改修、環境にも配慮した車両への更新」については大変心強い記載であるため、今後も支援賜りたい。

○万葉線(株) 楠代表取締役専務

- ・利用する地元の方々が時間をうまく活用できるよう、不自由を感じさせない運行をしたい。デジタル化を取り入れ、域外から来る人にも利便性の高い公共交通機関としていきたい。現車両が古いため、今後の新たな機能の導入への支援を賜りたい。

○加越能バス(株) 山崎取締役自動車部長

- ・素案 P23 の高岡型コミュニティ交通のイメージについて、青い矢印で示しているのは弊社で運行しているバス路線であるが、現状は運転手が不足しており、減便も出ているような状況である。素案 P28 の施策 2－4 ①には担い手の確保の支援について書かれている。担い手確保については大変厳しい状態であり、今後は運転手になりたくなるような PR 強化にも取り組んでいくので支援をお願いしたい。

○富山県タクシー協会高岡ブロック 高岡交通(株) 渡邊代表取締役専務

- ・タクシー業界においても、運転手の担い手不足の状態であり、お客様には迷惑をかけている状況であるため、担い手不足の問題に対しては支援をお願いしていきたい。
- ・素案 P13 の運行状況において、守山地区の「もりまる」、中田地区の「ノッカル中田」に対して協力させていただいている。地域の方がどのように地域の交通体系を作っていきたいかを行政に相談し、そこからどのような方法があるのか交通事業者に投げかけるなど市民協働型地域交通システムの導入にあたってはいろいろな方法があると思う。どのような場合も、地域の方が当事者意識を持たないと地域のための公共交通を作ることはできない。地域の方が当事者意識を持っていただくことを含めて取り組みに力を入れてほしいと思う。

○富山県交通政策局 交通戦略企画課長代理 谷村主幹

- ・県でも地域公共交通計画（富山県地域交通戦略）の作成中という状況である。交通ワンチーム部会等を通して高岡市からも様々な意見を賜りたい。
- ・県の戦略では、地域交通サービスというのは社会インフラであり、公共サービスと捉え、「投資」と「参画」により実現を目指すという理念を掲げている。県の戦略として現在協議している内容を市の計画においても多く取り入れて頂いていることは意義のある事である。
- ・素案 P28 の施策 2－4 「国や県と連携した担い手確保の推進」について、ここだけ「国や県と連携」と記載されているが、施策の中身を見ると、県だけではなく市単独でされている事業もあると思われる。言葉の表現だけの問題であると思うが、高岡市が自ら積極的に担い手確保に取り組んでいるという表現を使い、実際の事業に反映させてほしい。

○金沢大学 中山教授

- ・高岡市は鉄軌道が充実した街なので、今後新たにする施策には数値的な目標が多く示されているが、目標のために具体的にどんなことをするのかを明確に示していただきたい。
- ・市民協働型地域公共交通システムについては様々な種類があると思うが、地区の特色に合わせて取り組んでいるように見受けられる。今後も様々な形態で進めていってほしい。
- ・デジタル化については、具体的にはどのようなデジタル化を進めていきたいのか、アプリの開発や IC 化の進展について、各事業者との連携を深めてほしい。
- ・3 月の北陸新幹線の敦賀延伸に向けた、新高岡駅周辺の観光についての観点はどうなっているのか気になっている。新高岡駅にあるイオンモール等が中心になると思うが、モールへは車の利用者が多いように思われる。どのように公共交通を利用してもらうのか考えていくとよいのではないかと。長期的な視点となるが、新幹線の影響による街の変化も反映さ

せてほしい。

- ・総合交通計画で示した数値目標を達成するために、各施策についていつまでにどのようなことをするのかという具体的なロードマップを示すべきである。

※質疑応答、意見交換終了後、素案について、出席委員より承認をいただいた。

【その他】今後のスケジュールについて  
資料3に基づき事務局説明

上記、議事を終了し閉会した。

以上